

2020年度事業報告書

2020年1月1日から2020年12月31日まで

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

1. 事業の成果

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2020年度は活動の形態を変えながら日々子供たちの診療にあたった。ラオスでは早い段階でロックダウン措置が取られたことから、ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）では3月及び4月にかけて来院患者数に激減が見られた。ロックダウン解除後には徐々に来院患者数も元に戻り、12月末には例年の数字を超える状況となった。国境封鎖の措置により、3月末までに外国人専門家が急遽帰国することとなったため、予定していた教育活動の変更を余儀なくされたが、ラオス人スタッフへの「教育」の継続は重要課題であったため、オンラインを利用した形に変更する等して対応にあたった。院内での診療はもとより、地域での健康増進・維持への貢献も重要な活動の一つと考えていることから、ルアンパバーン市内のレストランスタッフへの手洗い指導の他、孤児院での健康教育を実施した。

助成事業として、カンボジアの「アンコール小児病院（AHC）」に対して継続して助成支援を行った。AHCにおいては、1日平均350人を超える患者さんが来院している。医療教育病院として、カンボジア全土より研修のために訪れる研修生への教育も継続して実施された。

日本国内においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、対面型でのイベントをすべて中止することとなった。そのため、オンラインを駆使し、YouTubeでのライブ配信、オンラインオークション、クラウドファンディング等を通して、資金確保に努めた。学生インターンを受け入れ、学生目線での発信やイベント開催により若年層へのアプローチにも力を入れた。アニュアルレポートやSNSの強化を行い、知名度/認知度向上に繋げた。LFHCへの寄贈品等、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でこれまで通りの頻度での輸送・運搬は難しい状況ではあったが、病院で必要とされる物資をできる範囲で届けた。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
助成事業	アジアの恵まれない子供たちの医療支援を目的とする団体へ助成を行う。	通年	アンコール小児病院	520名	1)カンボジア人医療従事者のべ500名以上 2)不特定多数のカンボジアの子供、教師や地域住民	41,131
医療施設運営・教育・予防事業	「ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）」の運営、医療・教育・予防事業を行う。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	140名	1)不特定多数のルアンパバーン地区の子供 2)LFHCスタッフ及び他医療施設スタッフ約150名	39,692
スタッフ派遣事業	専門家を派遣し、スタッフや住民へ医療・予防教育等を行う。	通年	ラオス、カンボジア	1名	現地スタッフ約140名及び不特定多数の地域住民	407
医療物資等運搬事業	病院のために寄贈された物品や備品等の輸送手配や、運搬を行う。	通年	法人事務所、他	10名	不特定多数の医療従事者と患者	2
普及啓発事業	WEBサイトやリーフレット、アニュアルレポートの活用、イベント等で広報に努める。	通年	法人事務所、他	20名	不特定多数の寄付者及び参加希望者	12,905